

令和6年度 会派調査研究報告書

(視察先1箇所につき1枚)

会 派 名	壮志会		
事 業 名	先進地視察	福岡県	みやま市
事 業 区 分	①研究研修	②調 査	

1 上田市での課題と研修・調査の目的

みやまスマートエネルギー（株）について、上田市の地域エネルギー会社はこの取り組みをどう生かしていくかの調査

2 実施概要

実施日時		視察先	福岡県	みやま市
令和 6 年 11 月 15 日（金）		担当部局	みやまスマートエネルギー（株）	
報 告 内 容	1 みやま市の概要			
	人口 35,481 人。			
	日照時間 2013 時間（276 位）の市で、市域の多くは筑紫平野の平坦地。			
	農業産出額 98 億の、ナスやセロリの国内屈指の産地。			
	大牟田市や柳川市のベッドタウン（合併以降毎年 500 人減少）。			
報 告 内 容	2 エネルギーの地産地消に向けた活動について			
	(1) みやま市の課題→合併以降、毎年 500 人の急激な人口減少・少子高齢化・雇用がない。			
	(2) 2013 年の電力自由化に伴い、みやま市から福岡市へ支払っている電力料金（30～40 億）を地産地消することにより、地域で経済が循環し雇用も生まれる。			
	地域電力会社を設立、経営することにより、地域の課題を解決しようとした。			
	(3) 商工業者の呼びかけにより、2015 年 3 月特別目的会社「みやまスマートエネルギー（株）」設立。			
報 告 内 容	(4) エネルギーの地産地消スタート			
	【地産＝主な電源】			
	① メガソーラー（発電能力：1,810kw）の発電会社設立。			
	企業誘致の為の塩漬けの土地を利用し、2013 年 7 月より稼働。			
	② し尿・浄化槽汚泥+生ゴミ、メタン発酵するし尿処理場（100kw）2018 年から稼働。			
報 告 内 容	③ 柳川市と共同でごみ焼却場を建設し、2021 年より稼働。（発電能力：1,810kw）			
	(5) 地域電力会社の役割			
	発電・需要家獲得営業、顧客支援、地域コミュニティの形成につながる企画提案。			

(6) 【地消＝売電先（電力提供）】

- ・みやま市の公共施設（36 ヶ所）+近隣自治体の高圧の公共施設 215 ヶ所。
- ・3メガワット買い取り、低圧の4300軒へ売電。

(7) 雇用創出（33名の雇用）

役員・監査：6名、一般社員：22名、契約社員・パート5名

(8) 令和5年時点での総利益4.5億円（令和4年300万、令和5年500万→市に寄付）

(9) みやま市の取り組み（2021年みやま市、ゼロカーボンシティ表明）

- ① 公共エネルギーサービスのしくみを構築。
- ② 収集した情報やサービスのノウハウを蓄積・分析し、市のエネルギー政策に反映。
- ③ 本事業の取り組みを広報を通じて市民に広く周知。

(10) その他

みやまパワーホールディングスからみやまスマートエネルギー（株）への業者変更の理由は方向性の違いで別れたもの（3年間面識なし）。

3 みやま市の取り組みを上田市の地域エネルギー会社はどう生かしていくか、考察

(1) 電源の確保

発電家獲得を含め、確実にいき、売電先（需要家）の獲得も着実に実施。（別所線沿線の中小企業者中心に）

(2) エネルギー会社組織は6～10名とコンパクトにし、初期投資、ランニングコストを抑える。みやまスマートエネルギーの脱炭素推進担当部長等、成功し利益を挙げている人材のノウハウ・アドバイスを活用して、経営管理体制を整えること。

(3) できるだけ早期の段階において発電売買方法や運営体制を独自で構築することが大切。オペレーションが大変な市場からの電力の購入確保などは自前のシステムを構築することで安定的に無理なく売買と電気量の確保が可能になる。上田市としても参考すべき。



みやまスマートエネルギー（株）本社



みやま市での調査委研究状況